

問題 9. アポクリン癌

症例：62歳、女性。右乳腺腫瘍。

検体（採取法）：右乳腺（穿刺吸引）

染色：パパニコロウ染色

問題：正しいものに○、間違っているものに×を下さい。（VS：バーチャルスライド）

1. VSでは、粘液性背景がみられる。 ×
2. VSでは、顆粒状の細胞質を有する細胞がみられる。 ○
3. アンドロゲンレセプターが高率に陽性となる。 ○
4. 経過観察が望ましい。 ×

解説

壊死性背景に平面的配列を示す小型から大型の細胞集塊が見られる（図1）。細胞は立方から多角形でライトグリーンまたはオレンジGに好染するレース状や厚みのある広い胞体を有し胞体内にアポクリン顆粒も認める。核は類円から楕円形で中心性に位置し大小不同見られ、一部に大型核も出現している。クロマチンは顆粒状で均等に分布し増量見られ、明瞭な核小体も認める（図2）。二相性は見られず、以上の所見からアポクリン癌を考える。鑑別診断として良性のアポクリン化生及び顆粒細胞腫があげられる。

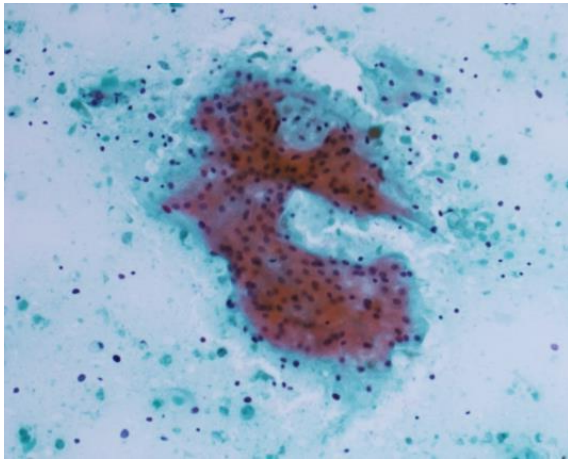


図 1

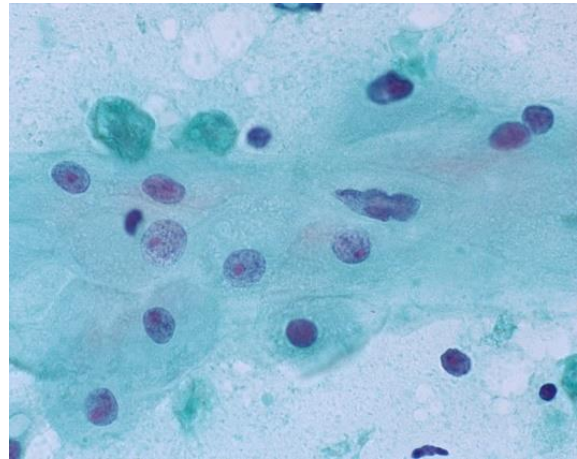


図 2

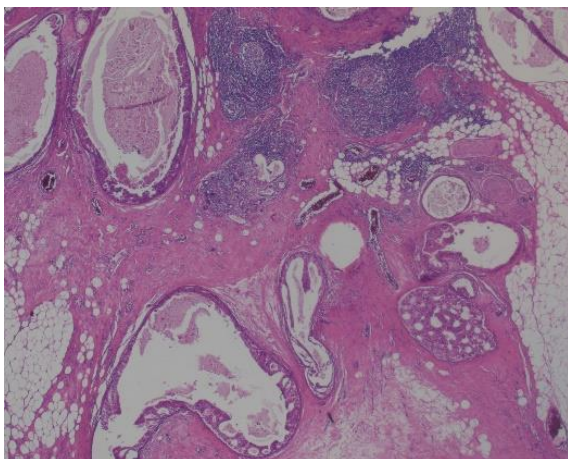


図 3

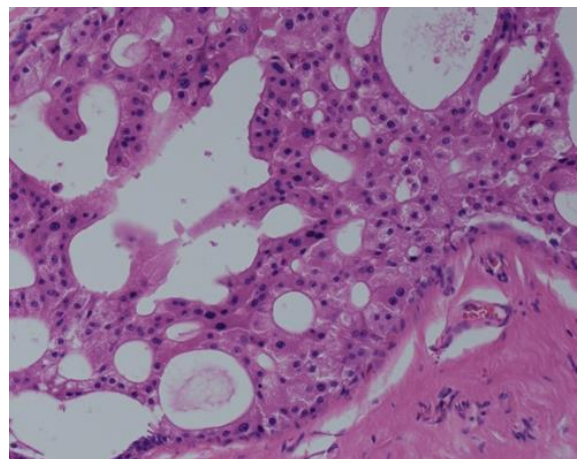


図 4

組織診断：アポクリン癌（図 3, 4）であった。